



学校だより 2月号

置かれた場所で咲きなさい

副校長 安東 光

立春を目前にしてもなお、寒さの厳しい日が続いていますが、正門脇の梅の花は、ほころび始め、今は三分咲きといったところでしょうか。確実に暦は変わり、生命の息吹は静かに新しい季節を招いてくれています。自然の中で逞しく生きる様々な動植物たちは、日照時間や気温の変化を敏感に感じとり、春の訪れを私たちに伝えていきます。日本の春を代表する梅や桜は、一年中温暖な地域では、美しい花を咲かせることができないそうです。四季がある土地で厳しい寒さの続く冬を耐えぬく時期を過ごすことによって春の開花を迎えられるのです。

私は、梅の花、桜の花の季節になると渡辺和子さんのベストセラーとなったエッセイ集のタイトル『置かれた場所で咲きなさい』という言葉思い出します。

植物たちは、自分の意志で育つ場所を選ぶことができません。種が運ばれて偶然たどり着いた所や、人に植えられた所で芽を出し、根を下ろし、夏の暑さ、冬の寒さ、雨風を耐えしのぎ、その土地に順応して逞しく成長し、やがてそれぞれの美しい花を咲かせます。

私たち人間は、植物たちと違って同じ場所で一生を過ごすということは今の時代ではほとんどありませんし、自分の意志で生活する場を

選ぶこともできます。

しかし、学生時代に進学する学校や所属するクラス、大人になってから配属される職場など、必ずしも自分の思い描いた望み通りの場所でいつも過ごせるわけではありません。それでも自分に与えられた環境に感謝し、どんなところに置かれても花を咲かせる心を持ち続け、自分に縁のあった場所で縁のあった人たちからいろいろな刺激を受け、多様な考え方や価値観を学ぶことによって、人は大きく成長することができるのだと思います。私たち人間は、自分がうまくいかないことを人のせいや置かれた環境のせいにしてしまうことがあります。人の幸せや成功は、置かれた場所で決まるのでは無く、自分の心のもち方と努力、そしてそこで出会う人との関わりによって決まってくるものだという事をこの本を読んで改めて考えさせられました。

都田西小学校の子どもたちが、将来、それぞれ置かれた場所でしっかりと根を張り、枝葉を育て、様々な困難を一つ一つ乗り越えてすてきな花を咲かせることができるように教職員、保護者、地域の皆様が力を合わせて子どもたちの健やかな成長をサポートしていける学校・地域でありたいと思います。